

# 景気観測(LOBO)

《2017. 10~12月》

平成29年度 第3四半期

日立商工会議所  
情報化委員会

## I. 調査概要について

### (1) 調査期間並びに調査基準

調査期間	四半期毎に実施、時期としては7, 10, 1, 4月
調査基準	四半期毎の景況感を対前年同期と比較

### (2) 調査対象並びに回収状況

業種	調査対象件数	回収件数	回収割合 (%)
製造業	25	22	88.0%
小売業	30	24	80.0%
建設業	20	17	85.0%
サービス業	25	21	84.0%
計	100	84	84.0%

### (3) 調査内容並びに調査方法

調査項目	業界全体の動向と関心事項 売上高の推移と変化要因 採算・仕入単価・従業員の変化状況
調査方法	FAXの活用

### (4) 調査結果の採用

商工会議所として、景況の判断資料とすると共に一般会員にも「かいぎしょNEWS」での掲載を中心に景気動向として発表。協力事業所に対しても結果送付。

#### ◎ LOBOとは

「CCI (Chamber of Commerce and Industry)-Quick Survey System of Local Business Outlook」(商工会議所早期景気観測)からとった略称です。

#### ◎ DI値(景気判断指数)について

- ・ DI値は調査項目についての景況判断状況を表す。(△で上向き ▲で下向き)
- ・ 強気、弱気等景況感の相対的な広がり意味着。
- ・  $DI = (\text{増加} \cdot \text{好転} \cdot \text{不足等の回答割合}) - (\text{減少} \cdot \text{悪化} \cdot \text{過剰等の回答割合})$

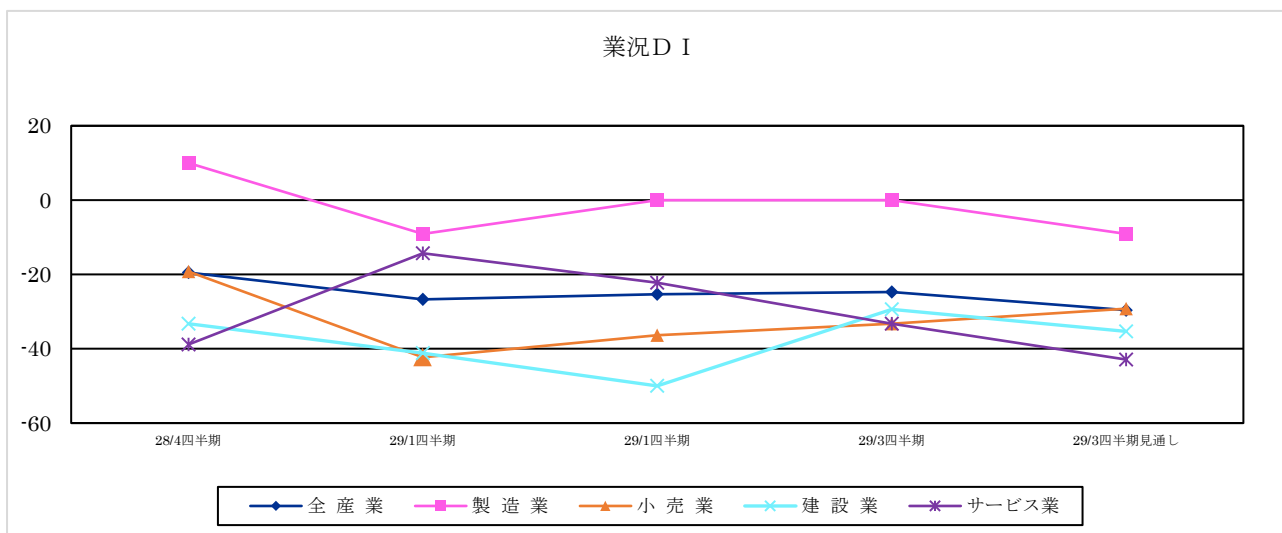
## II. 業況判断について

- 全産業の業況は、▲23.8と前回調査時(▲25.3)から1.5ポイント改善した。今後の見通しは▲28.6(前回調査時▲25.3)となり、前回に引き続き悪化の見通しとなった。
- 製造業では、0.0で前回調査時(0.0)と同ポイントとなり、前回の見通し(▲4.0)より良い結果となった。一方で今後の見通しは▲9.1となり、悪化の傾向となった。
- 小売業では、▲33.3と前回調査時(▲36.4)から3.1ポイント改善し、ゆるやかに上昇はしているが、前回の見通し(▲27.3)を下回る結果となった。今後の見通しは▲29.2で、鈍い動きが続く予想となった。
- 建設業では、▲29.4と前回調査時(▲50.0)から20.6ポイント改善した。今後の見通しは前回の見通し(▲50.0)よりは改善し▲35.3となったが、見通しは依然厳しい状況が続く結果となった。

- サービス業では、▲33.3と前回調査時(▲22.2)から11.1ポイント悪化した。今後の見通しも▲42.9と前回調査時(▲27.8)よりさらに悪く、引き続き悪化の見通しとなった。

(1) 業況D Iの推移とキーワード

	平成28年度	平成29年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1月~3月)
全産業	▲19.5	▲26.7	▲25.3	▲23.8	▲28.6
製造業	△10.0	▲9.1	0.0	0.0	▲9.1
小売業	▲19.2	▲42.3	▲36.4	▲33.3	▲29.2
建設業	▲33.3	▲41.2	▲50.0	▲29.4	▲35.3
サービス業	▲38.9	▲14.3	▲22.2	▲33.3	▲42.9



	キーワード		
	第1位	第2位	第3位
製造業	原材料値上げ	人材不足	受注増
小売業	季節商品	競合過剰	少子高齢化
建設業	人材不足	競争激化	材料費高騰
サービス業	人材不足	コスト高騰	オリンピック需要

《全国との比較》

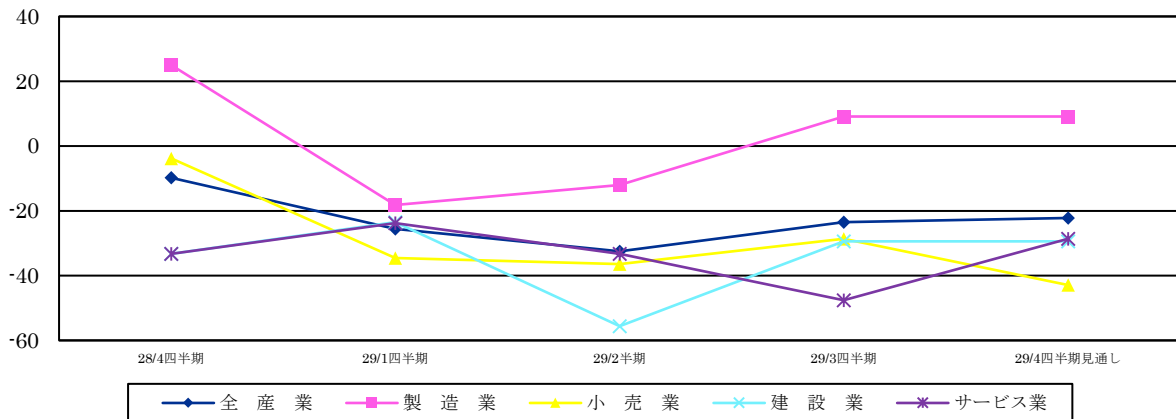
	平成29年度第3四半期		今後の見通し(1月~3月)	
	全国(12月)	日立	全国	日立
全産業	▲13.3	▲23.8	▲16.6	▲28.6
製造業	▲6.7	0.0	▲10.1	▲9.1
小売業	▲25.8	▲33.3	▲24.0	▲29.2
建設業	▲7.4	▲29.4	▲13.7	▲35.3
サービス業	▲11.5	▲33.3	▲18.6	▲42.9

(2) 売上高・採算・従業員の推移(D I値)

(売上高)

	平成28年度	平成29年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1月~3月)
全産業	▲9.8	▲25.6	▲32.5	▲23.5	▲22.2
製造業	△25.0	▲18.2	▲12.0	△9.1	△9.1
小売業	▲3.8	▲34.6	▲36.4	▲28.6	▲42.9
建設業	▲33.3	▲23.5	▲55.6	▲29.4	▲29.4
サービス業	▲33.3	▲23.8	▲33.3	▲47.6	▲28.6

売上高D I



(採算)

	平成28年度	平成29年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1月~3月)
全産業	▲23.2	▲20.7	▲32.5	▲33.3	▲29.6
製造業	▲10.0	0.0	▲12.0	▲13.6	△9.1
小売業	▲12.5	▲11.5	▲45.5	▲38.1	▲42.9
建設業	▲47.1	▲38.9	▲55.6	▲52.9	▲58.8
サービス業	▲28.6	▲38.9	▲22.2	▲33.3	▲33.3

(従業員)

	平成28年度	平成29年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1月~3月)
全産業	△20.7	△20.7	△13.3	△22.2	△23.5
製造業	0.0	△25.0	△16.0	△18.2	△13.6
小売業	△8.3	△11.5	△13.6	△9.5	△14.3
建設業	△35.3	△22.2	△11.1	△41.2	△41.2
サービス業	△42.9	△27.8	△11.1	△23.8	△28.6

(3) 業種別概況

業 種	概 況
製 造 業	<p>家電製品関連の低迷は依然継続中、建設用機械・自動車関連が業況を押し上げているが、エネルギーコストや原材料費の上昇、海外輸出のシェア確保が難しいことなどの不安要素もあり、一進一退の業況が続いている。</p> <p>個別では「世間で言われる通り、やや景気が上向いてきている実感がある。(組合)」「原材料等値上げで採算ベースではあまりよくない。(鉄鋼業関係)」「作業量の谷間が深いと山も低くなり挽回しづらい。(産業用機械関係)」などの報告があった。</p>
小 売 業	<p>消費者の低価格・節約志向は依然根強い。少子高齢化で労働人口が減少、将来への不安感などから全体の需要が下がっている。物価上昇や消費税増税への懸念もあり、非常に厳しい業況。</p> <p>年末年始の季節商品も時期が過ぎると売上が減少し、昨今の景気回復基調を実感できず、厳しい状況が続いている。</p> <p>個別では、「少子高齢化でイベントに人が集まらない、祝うべき子供が少ない状況。(食料品販売店)」「昨年より気温が冷込み、灯油の出荷が好調。(石油製品販売店)」「騒音・環境問題対策のため新車価格が上昇している。(自動車販売店)」などの報告があった。</p>
建 設 業	<p>東日本大震災の復興工事も一段落してきた中、公共・民間工事数が減少、競争が激化し採算が低下している。</p> <p>慢性的な人材不足は続いており、工期の遅れや一時中断による各種費用の問題がある一方、人材確保のための労働環境改善の問題もあり、難しい状況となっている。</p> <p>個別では、「若い人材が業界へ入ってこず、確保が難しい。積極的な受注ができない。(土木工事)」「今後の会社変革のため、役立つ知識や情報を集めている。(建築材料関係)」などの報告があった。</p>
サービスマ業	<p>物流関連では、ドライバー不足は継続。労働環境改善や賃上げが問題視されてきており、厳しい業況となっている。</p> <p>観光・飲食業関連では、人材不足や材料費・人件費上昇が引き続き課題となっている。一般客利用は増加するも、団体での宴会・宿泊利用の回復は見られず、依然として改善の有効策を模索する苦しい状況が続いている。</p> <p>個別では、「慢性的なドライバー不足。売上が伸びても利益が残らない。(運送業)」「婚礼受注が水戸やいわきなどの都市に流出している。国体や五輪のインバウンド需要に期待。(ホテル業)」「企業などの団体客は減少、一般客は増えている。(飲食業)」などの報告があった。</p>